

(様式第3号)

平成21年度福島県立病院
医学研究補助金実績報告書

平成22年3月12日

病院事業管理者 様

研究団体 (個人)

事務局の所在地 福島県南会津郡南会津町永田字風下14-1

研究団体の名称 福島県偽痛風研究会

申請者の職・氏名 医長 箱崎 道之



印

平成21年07月17日付け福島県指令病第239号で交付決定を受けた平成21年度福島県立病院医学研究補助金の実績を次のとおり報告します。

1 研究課題名及び研究概要

研究課題：偽痛風発作時の炎症性サイトカインの検討と、標準的治療法の確立

研究概要：

偽痛風発作は、整形外科の日常診療で遭遇する頻度の比較的高い疾患である。しかしながら、その病体についてはいまだ不明な点も多く、確立された標準的治療法もないのが現状である。

近年、偽痛風発作において、PGE2を始めとした炎症性サイトカインが誘導され、局所のみならず全身の激しい炎症反応が生じることが知られている。しかし、関節リウマチなどの関節炎で高値となることが知られているIL-6の関与については報告がない。

今回の研究において、偽痛風発作におけるIL-6の経時的変化を計測し、その関与を明らかにするとともに、3群に振り分けた治療法の効果をIL-6値から評価して、標準的な治療法を確立することを目指すものである。

今回、福島県立南会津病院整形外科を受診した偽痛風性膝関節炎の3症例から検体を収集し、血中および関節液中のIL-6値について検討した。また、治療として関節内に注入した薬剤の違いによるIL-6値の変動の差異についても検討した。残念ながら、当初予定した検討症例数には及ばなかったため、統計学的な検討は行うことが出来なかった。

＜県立病院診療水準の向上にどのように結びついたか＞

現在、偽痛風発作に対しては標準的な治療法が確立されていないが、今回の検討結果から治療薬剤の選択肢を広げることが出来た。

＜研究結果の発表予定＞（□にチェック印を付け、必要事項を記入）

□「福島県立病院医学研究誌」（第____巻）に掲載

☑「福島県自治体病院医学会」（平成22年度）で発表（又は研究抄録の提出）

□その他（具体的に：_____）

※詳細については別添のとおり

2 研究事業報告

(1)			
研究実施目的		偽痛風発作時の炎症性サイトカインの検討と、標準的治療法の確立	
(2)			
研究実施経過		福島県立南会津病院整形外科外来を受診した偽痛風膝関節炎の患者を対象症例とした。 治療法を、①穿刺廃液+1%リドカイン5ml注入+セレコキシブ内服、②穿刺廃液+1%リドカイン2mlおよびヒアルロン酸製剤注入+セレコキシブ内服、③穿刺廃液+1%リドカイン5mlおよびステロイド薬注入+セレコキシブ内服の3群に分類し、それぞれの血中IL-6濃度、CRP値の経時的変化を検討した。	
(3)			
研究結果の概要		当初の予定では各群5症例ずつの合計15症例を検討する予定であった。しかし残念ながら典型的な偽痛風性膝関節炎の症例が少なく、今回の検討は各群1症例ずつの合計3症例で行った。症例数が少なかったため、統計学的な検討は行えなかったが、検討した範囲では3群間で治療効果に差はなく、どの治療薬剤を選択した場合でも同様の治療効果が得られる可能性があると推測された。	
(4)			
研究実施期間		平成21年8月8日 から 平成22年3月10日 まで	
(5) 分担研究者			
職	氏 名	(6) 分担した研究項目	(7) 配分を受けた研究費の額
医長	箱崎 道之	調査計画の策定と実施 データ解析	配分せず
医員	福田 宏成	調査計画の策定と実施 データ解析	